

中間報告書（平成 23 年度）

提出者 安里和晃

提出年月日 2012 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文 人の国際移動と親密圏/公共圏の再編成

英文 International Migration and Reconstruction of the Intimate and Public Sphere.

【メンバー構成】

研究代表者 安里和晃

幹事 郝洪芳

メンバー 青山薫、五十嵐誠一、上野加代子、櫻田涼子、高谷幸、松谷実のり、松井智子、崔博憲、許燕華

【ねらいと目的】（600 字程度）

人の国際移動が親密圏や公共圏をどう再編するかといった問題は、移民研究において比較的盛んに議論されてきたといってよい。人の国際移動は市民権の喪失を伴うことが多く、受け入れ国においては労働権や移動の自由、あるいは滞在に関する問題が発生しやすい。したがって、市民団体による支援やマスコミ報道を通じて社会問題化、外交問題化し、ついには制度が変更されること散見される。このような移住労働者が公共圏を生成するプロセスは、主体性(エージェンシー)の視点からも重要な研究領域であった。しかし、現代的な移動の特徴と位置付けられる国際結婚、家事労働、介護労働、看護労働のジェンダー化された人の国際移動、あるいはアセアンの地域統合のプロセスにおける人権概念の成立過程における公共圏の成立過程は従来と異なっている。

また国際移動と親密圏に関して言えば、家族離散のように親密圏領域が国境を跨ぐため、親密性が大きく再編される。遠隔育児、家族関係の維持、仕送りなどさまざまな遠隔的な再生産労働だけではなく、受け入れ国の親密圏も、家事労働者といった「親密なる他者」の存在によって大きく再編される。そして移民の場合には親密性の蓄積と共に社会関係資本を活用することがホスト国に生きる移民の重要な資源であることが指摘される。

ケアの欠如はこうした再生産労働の商品化と親密圏再編成の連鎖をグローバルレベルで生じさせるが、これはポスト工業社会における、受け入れ国の福祉体制や近代家族を維持させる人の国際移動ともいえる。親密圏/公共圏の再編成をもたらす現代の人の国際移動について検討し、最終的には多様性を支える公共の論理についても考えることとしたい。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

主要なもののみ。

2011年5月27日～7月25日 松井智子、タイ、タイにおける国際移民および帰還移民をめぐる親密圏の再構築に関する海外調査

2011年7月31日 研究会開催。

2011年8月末 許燕華、中国吉林省延辺、人口移動による残された高齢者の介護・福祉状況に関する調査
8月20日～9月22日 櫻田涼子、京都エラスムス計画・中国社会研究短期集中プログラムに参加（南京大学海外教育学院語学研修プログラムに参加し、研究課題「中国都市部における住宅と家族関係についての調査研究」の実施。

2011年10月12日～16日 青山薫、ロンドン、第二回 Sex Worker Open Universityに参加し、共同研究者友友紀子・八木香澄と日本における外国人性労働者に対するアウトリーチワークの困難などについて報告。

10月16日 シンポジウム「地域の担い手としての結婚移民」を開催。

(プログラム)趣旨説明 金戸幸子 藤女子大学

ケアの担い手としての結婚移民の職業訓練 安里和晃 京都大学

被災した結婚移民の自立に向けて 後藤美樹 SAGIP

結婚移民の子どもたちに対する教育支援 内田晴子(京都文教大学)

台湾における結婚移民と社会参画 夏曉鵬(台湾)

討論者：武田里子、嘉本伊都子、李姫善

2011年10月22日 研究会 郝洪芳「アジアにおける結婚移民問題について」

2011年11月24-27日 松谷実のり、上海、「和僑アジア大会」に参加。アジアから世界各地の日本人コミュニティの集合体へと移行しつつあり、海外在住日本人起業家である彼らがよりディアスポラ的な色彩を強め始めていることを確認。

2011年11月30日-12月6日 松谷実のり、シンガポール、「和みの会国際交流会」に参加

2012年2月10日 シンポ「多文化共生と介護——外国人ワーカーの雇用を考える」開催。

2012年1月27日 研究会 上野加代子「『国境を越えるアジアの家事労働者——女性たちの生活戦略』について」

2012年2月11日から2月12日 研究発表会を開催。郝、許、松谷、崔らが報告。

2012年2月10日～16日 青山薫、台北・高雄、台北では、COSWAS (Collective of Sex Workers and Supporters) を訪問。昨11月の社会秩序保護法の改正による移住性労働者、結婚移民などに対する影響について性産業関係当事者の意見を伺う。

2012年2月28日 国際セミナー「老いるアジアと看護・介護の国際移動」

このセミナーでは老いるアジアにおける看護・介護についての国際比較を行う。台湾、韓国は受入国となり、日本も経済連携協定を機に多くの外国人が看護・介護に従事していることが明らかになった。また送出国として代表的なフィリピンにおいては看護師をはじめとして多くが看護師・介護士として就労している。アジアが急速に高齢化する中で看護師・介護士の確保は急務だが、ケアの不足が多くで伝えられており、看護師が介護士になるなど様々な矛盾が伝えられている。本セミナーでは台湾、韓国、フィリピンから著名な研究者を招聘して報告を行う。

登壇者

Prof. Lee HaeKyung (Pai Chai University, Korea)

Prof. Wang Hong Zen (National Sun Yat-sen University)

Prof. Fely Marilyn Elegado Lorenzo (University of the Philippines)

Prof. Tseng Yen Fen (National Taiwan University)

Prof. ASATO Wako (Kyoto University)

2012年2月29日～3月4日 安里和晃、中国吉林省、中国朝鮮族の移動および研究とりまとめに関する打ち合わせ

2012年3月5日～10日 上野加代子、フィリピンマニラ「ライブリフッド・ビジネスプロジェクト」に関する調査

【成果の概要】（800字程度）

メンバーは京都エラスムスプログラム、コアプロジェクト、次世代研究などを通じて海外調査に従事してきた。その合間を縫って研究会などを開催し、以下のようなテーマで研究を進めることとなっている。

公共圏の再編成：アジアにおける公共圏概念の生成(五十嵐)、労働者性を排除される性労働者と市民運動(青山)、国境をこえた親密圏の構築が市民権という公共圏問題を提起する(高谷)

親密性の商品化：再生産労働という親密なる労働の国際商品化(安里)、国際結婚を通じた近代家族の相対化の試み(郝)

親密圏の(再)構築と活用：帰国者の再統合と親密圏の再形成(松井)、移民の再生産労働に関する資源の活用のあり方(櫻田)親密性構築が及ぼす人の定着(上野)、

構造と主体のはざま：現地採用移住という逆転した移住労働(松谷)、移住労働者の労働者性と主体性(崔)

親密性・公共性を問う倫理規範：性労働(青山)、国際結婚(郝)、再生産労働の国際商品化(上野、安里)、研修技能実習制度(崔)、国籍問題(高谷)

国際移動は市民権の喪失を伴うため、受け入れ国においては労働権や移動の自由、あるいは滞在に関する問題が発生し、市民団体による支援やマスコミ報道を通じて社会問題化、外交問題化する。選挙権を持たない移住労働者が公共圏を構築するのは受け入れ国の人権の論理をめぐる公共空間のあり方に規定される(例：上野、高谷、安里)。また所与の空間としての受け入れ社会だけではなく、主体としての移住者がどう親密圏を形成し、社会的地位の上昇を果たすか(高谷、上野、松谷、櫻田)も定住傾向に大きな影響を及ぼす。親密圏の再編成は再生産労働の国際商品化に端的に表れている(青山、郝、高谷、安里)、これは同時に労働者性を問うものであり、受け入れ国における近代家族のあり方、福祉レジームのあり方、人口構成の変化と家族役割のあり方を問う(安里、崔、高谷、青山)ものである。また受け入れ国の再生産労働の補填を送り出し国女性が担っていることも、近代家族が成立しえない途上国の一因となっている。送り出し国における再統合問題は親密圏再構築の問題だが、それは帰国したという単純なものではなく、摩擦を伴う再統合のプロセスである(崔、松井)。

人の国際移動がどのように親密圏と公共圏を再編するかといった問題設定は、移動研究

ではこれまで盛んに行われてきた。しかし、極めて現代的なテーマが取り扱われていることがこれまでの検討の結果わかってきた。アジアにおける公共圏概念の生成が地域統合と共に問われていること、性労働や国際結婚、再生産労働の国際商品化、研修技能実習制度は労働者性といった倫理的側面、規範的側面が問われる問題でもある。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額